



JCLIFE

2020年
10月号

JCI 一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>

9月例会

9月18日(金)、一般社団法人尾道青年会議所はコロナウイルス感染症対策として9月例会を初めて全てをリアルタイムでのオンライン例会として開催しました。

本例会では、株式会社アイムサプライ代表取締役社長、幸継舎志動塾代表の伊豆田先生よりご講演をいただき、テーマを「コロナウイルスがもたらす未来の経営」とし、コロナウイルスが我々に与えた変化、そしてその変化とともにたらされる経済・経営の変化についてお話いただきました。

今、日本各地で猛威を振るうコロナウイルス、このコロナ渦でも会社、社員を守り、明るく活気溢れる社会を取り戻せるように我々には何ができるのか、全員で考える場となりました。

またZOOMの機能を利用して例会アンケートを集めるなど従来には無い新しい試みがたくさん詰まっていた臨場感

と参加感のある学びの多い例会となりました。

これからも明るい豊かな社会の実現の為邁進してまいります！

(記事・真のしあわせを知る
経営者育成委員会委員長
岡本大輔)



『尾道花火打ち上げプロジェクト「2020」』に多数のご支援をいただき、誠にありがとうございます。

当プロジェクトを9月8日に開始し、早々に大変たくさんの方からのご支援をいただき目標金額150万円を達成する事が出来ました。

また、こんなにも多くの方が尾道のために温かいご支援をしてくださっている事を受けてネクストゴールを設定し、現在の目標金額220万円も達成する事が出来ました。

たくさんの方の皆さまの想いを込めて、プロジェクト成功へ向けに進んで参ります。

ありがとうございます。

「2020年 尾道」
何も無い、なんてことはない。

お一人お一人の想いを集めて、尾道の夜空に美しい花火を咲かせましょう。

引き続き皆さまの温かいご支援とプロジェクト成功へのご協力を宜しくお願い致します。

(記事・夢・希望・憧れ委員会委員長 高山敦好)



卒業生スピーチ



高橋 洋 樹

卒業予定者気分というの味わっていないんですけれども、話させて頂きたいと思っております。まずJICに入会した経緯なんですけれども、井上設備の井上先輩から3年間、「お前入れや」と軽い感じで話をいただきました。3年間お話をいただきました。3年目に断つたらちよと男としてどうなんかと、3回言われて3年待たして断つたらどうなんかと思ってしまう時は入会したんですけども正直ね、今色々人生経験を積みまして3年越えてもいいじゃん4年でも5年でもいいじゃんと思っておりますけれども、当時はそういう気持ちがあつて入会させていただきました。

まず、井上先輩からJICって何なのって聞いてんですけども全然教えてくれない。三つ折りの冊子を渡されて、これ見とったらJICってわかるからと言われてもらったんですけど、平和とかなんか色々書いてあつたんですけど、全然わからなくてやばいって思いながらやりました。あそこ行つてくださいますか？と井上先輩から色々指示がありました。色々行つてますと出席率が良かったといわれて結構候補者の中で出てみたい年度は幹事としてブロック実行特別委員会にまあ花形になると思うんですけど広島県の12LOMのブロック大会をね、設える。尾道でやるんで設えるといつた委員会に配属されました。僕と高升純君。幹事を仰せつかりまして、やつておつたんですけども、意味が分からんと、やりようのこの意味がマジで分からんと純君分かる？分からん！俺も分からん。でもついていくなかない。いいながらやつてたんですけども、結果何か月かをすこしましてその当時その委員会

ゆうのがMr、JICの集まりで川崎副実行委員長、そして山北副実行委員長、そして谷原さん、中谷さん、森川さん、武也先輩、美ノ上さんとか色々おりました。濃いすぎるぐらいのメンバーで1年間突っ走つていったのを無理やりついていったみたいな1年でございました。実際ブロック大会というのを経験させていただきました。台船を用意してそして式典をして、たからいちちをしてそれぞれが責任をみんなもって委員会メンバーをはじめ担当の人が責任をもつてやつておりました。そういった中で1年ブロック大会を一緒にやらせていただきました。JICですげえなと正直思いました。こんなことするんだと。俺の思っていた次元を超えてるなと大丈夫か俺とそう思ったんですけど。そこでやらしていただきました。この年なんですけれども二つ悩み事がありました。僕と純君で付いていくのが精いっぱいございまして、なにをしようるかわからんと。そのうち見えてくるだろうと頑張つてやつてたんですけど、川崎耕平副実行委員長からいろいろなラスタメントを受けまして、これマジの話です。マジで復讐しようねと、そんな話をしながらやつてまして、そんな時に美ノ上さんが、NHKの動画で（仕事の流儀）つてのがあるんですけど、パワハラ動画を委員会全メンバーに流してくれるとそれ聞きながら僕ニヤニヤしながらもう少し頑張ろうかとまあそういう1年でございました。そういうときに僕らの失敗の歴史があります。言わしてもらおうと、ブロック大会の宝市の設営の時に森川さんが設営をしたんですけど、おばあちゃんがいます。車をよけてあげようとしてよけてあげる前に緑地帯の防護の石がありました。それを根こそぎ武也さんのくるまでやつちやいまして、俺的にはショックだったんですけど電話かかってきまして、「お前なめとんか」と「なめてはないです。絶対なめてないです。俺はこの件に関して誰よりもショックうけとる」お前はめっちゃくちゃ笑よると。「いや絶対笑つてない」とあれは人間って不思議なもので防衛本能なんぞ人間ってふしぎなものです。

2年目になりました。山本慎也委員長、浩太さんが副委員長で（吉田）雄太君と（山本）圭ちゃんが幹事です。ごく楽しい委員会を過ごさせてもらつて、本当笑っている毎日だったというイメージがあります。その時に出向歴を見て頂く。と日本JIC出向いたしました。加度理事長が出向されました。政成さんが小幹事という役で出向されたんですけど、人がいないので財政幹事になりまして訂正させていただきます。その時に申し訳ないですけど日本に出向しまして加度理事長の会社で委員会としました。すけど夕方方に集まりまして、委員会をしますと。加度理事長が今日はこうゆう話をして議案をまとめますと、じゃあほく手伝いますと、議案をまとめようとなったときにメールで議案が届くんですけど400ページ以上ありまして、やばあ、こんなのマジ付きあえん、その時は逃げてしましまして申し訳ございません。その分今は委員長をさせて頂いてその分は返そうと2年目からすこし自分の会社が代替わりとか仕事が状況が変わりまして仕事が増えましてJICに参加することが出来なくなりました。2年目の終わりから3年目にかけてなんです。

3年目は今年拡大させていただいてるんですけど同期の日暮委員長同期なんて頑張ろうと思つていたんですけどなかなか参加することが出来ず、いまはこうゆう風な立場でございます。日暮委員長はこんな委員を抱えて大変だったろうなと思つて何かで返すねという思っています。やつてくれといわれたことをしっかりとやつてほしいとおもいます。先輩が入会したときによく言われてたんですけど、「時間はつくれるよ」といわれてましてつくれんよと思つてたんですけど、2年目3年目を過ごしてらうちに意外とほんと作れてくるもんで、だんだんJICの活動ができるんじゃないかとおもうようになります。4年目で河原研介委員長の下で委員として参加させていただいたんですけどその時にみなとまつりで謎の道というので、謎を解いてゴールまでたどり着くというものなんですけど家族で大人子ども合わせてみんなで親近感でゴールを目指して行くんです。そういうのを見てるとJICですげえなと。ちよと涙が漏れまして。こうゆう事業考えた研介先輩すげえなつて思っています。そのときにまた同じ年なんですけど防災事業というので学校に行つたんですけど地震が起きた時にじゃどうする、どう対処する、どう備えるつていう授業なんですけど、これも子どもたちも純粋ですごく聞いてくれるんです。先生として扱つてくれるんです。先生つて言われるのはすげえ楽しいんです。そういう事業をしましてJICで団体つてのはほんますげえ団体なんだと改めて思っています。そして地域の魅力創造委員会と同期のまこちゃん委員長をやりまして最初からずっと直感だと思つてんですけど、尾道といえは寺でしょ、寺といえはフエスでしょと寺とフエスが繋がらなかつたんですけど、ずーといつづけて寺で例会をしまして寺フエスつてのをやつたんですけど、そこで来ていただいたお客さんもそうですし僕がダグンスの担当になりました。そのひとらが帰る際に「JICのイベントだったらまた呼んで」とそんな感じでお話をされました。そんなとき（大本）まこちゃん副委員長の（高橋）健太君、半年間理事をやれやれと言われましてここまで言うならやりますよと。やらしてもらつたんですけど、実際にやるんであれば色々めにかけてもらつたり、楽しくさせてもらつた人の顔を思い浮かべましてその人たちの恩返しのために委員長をやるうと思つたんですけど、逆にやつてみて思つたのは当委員会をはじめ色々皆さんに助けてもらうことが非常に多すぎて感謝してもしんでえなというぐらいいろんなものももらった1年でした。今年はどうゆう状況でも入会を決意してくれた候補者の皆様とかありがとうの1年。人生最大のありがとうの1年だったんじゃないかなというふうに思います。

ここからは言いわせていただき、最後にちよつとお話させて頂きたいのは、僕は逃げ続けました。色んな無理だとか出来ないとかそうゆうふう逃げ続けたんですけども僕やりましたんでみんなやれや(笑)

目の前に何かしら絶対みんなありますって！必ず目の前にこの団体に今ここにおるってことは何かしら役割がありますって。やれやと。だっておれやつたもん。やれや。やつちやえよと。常に加度理事長がハイかYESかこれってほんと理にかなつてると思うんです。できる出来ないじゃない。やるやらないじゃない。やるまでやりきる。なんでやるしかないのやれや。で僕ら卒業生でできません。だつたらみんなやるしかないじゃん。みんながちよつとずつやれや。やつちやえよ。楽しめよ。僕はブロックも壊しましたし、2年目で西山先輩の前で金屏風ぶち破りましたもん。ぶち破つてあの西山先輩の苦虫を噛み潰したような顔は生忘れません。でもこれいい思い出じゃないですけど、去年先輩も言つてましたけど「ミッセーや」やらんやつはミスもせんのにじゃけー。やつちやえよ！やつば色んなね…。

川原浩太「今もミスしとるどー時間時間」
洋樹「あ…ごめんさい。そういうことで卒業生スピーチと致します。ありがとうございます。ごさした!!」



中谷 純也

ノープランで来てしまったので、少しちぐはぐになるかもしれませんが、最後まで聞いて頂ければと思います。(高橋)洋樹君が大好き。おしたので僕は早く終わらせたいなと思います。

まずJICに入るきっかけとなったのは、山北君、小中の同級生なのですが、30歳の時小学校の同窓会でつてその時に「のちのち加入に行くよ」と言うので、このJICって言うのを初めて知つて、入りました。今となつては誘つて頂いて本当に

ありがたいなあと思ひ大変感謝しています。ありがとうございます。

何を話したら良いのかと思つていたのですが、未来ある方々が沢山いますので、僕が体験したこととを少し話すのが良いのかなと思ひ、自分の印象に残つたことを少し飛ばす年もあると思ひます。が、話していいかと思ひます。

24年はすみません、全く出ていなかったのですが、LOM歴としてはあれだと思つたのですが…。

25年の時に幹事として入りました。その時は、濱中先輩の委員会が祭り委員会だったので、この時の思い出としては、空の光るドンペリを名古屋の錦で濱中先輩が名残惜しそくに二人抱え、皆で恥ずかしい思いをしながら歩いた卒業旅行が印象に残つています。

翌年は、政成委員会なのですが、こは政成君が腸が腐つて死にかけたという委員会の思い出がある委員会です。その翌年がブロック大会で、先ほど(高橋)洋樹君が言つていた委員会に所属していたので、(高橋)洋樹君が話をしていたので、こは飛ばさして貰おうかと思ひます。

翌年28年、私委員長を仰せつかつて、未来ビジョン委員会と言う委員長をやることになりました。この年、委員長を受けて10月に室合同をやつて、12月に父親が膵臓癌と言つたのが分かつて結構大変な年だったので。その時、美ノ上副理事長と井上先輩と卒業予定者の山本邦人先輩と委員会メンバーには、すごく助けて頂きました。その中でも、美ノ上副理事長には、迷惑をかけたと言ひますか、委員長をやつていた時結構一生懸命だったんで、一回結構ガチでぶつかつて「なんで分かつてくれんのや」と思つていましたけど、自分が副理事長をやつた時に、副理事長をやることによつて責任だとか、そういうものが見えてきて、あの時は申し訳なかつたなと結構思ふことがあります。その時の副理事長には結構噛みついてたんだとか、自分の中では「く一生懸命やっていた分」なんで分かつてくれんだ」と言う思ひが強く、結構噛みついたなあと思ひます。

す。その事に関しては、美ノ上副理事長にはすごく助けて頂いたと思ひます。「ありがとうございます。ごさした」

自分が委員長の時にサバイバルゲームがやりたいと言つたので、結構やつたかなと思つたのですが、委員会メンバーとか自分が知つている仲の良い高升君とかメンバーを誘つて、「森川(陵君)の会社でフィールドを作つて、「あーでもない、こーでもない」と言つたのをやつたのが結構、一番思い出つたかなと思ひます。「あの時は、ありがとうございます。」

翌年29年、地域の希望育成委員会が副委員長をやらせて頂いたんですけど、川原(奨)先輩の時に副委員長をやらせて頂いたんですけど、僕がJIC歴で一番楽しかったと思つてたのが、この年です。大前君が幹事でいていろいろ無理難題を「お金がないなら自分らで作ればいいじゃん」と言つて感じで、鉄板を曲げたり、竹を切りに行つたりして、凄く思い出に残る委員会だったと思ひます。この委員会が一番記憶に残つているのが、川原(奨)先輩の委員会旅行で委員長に最後はやり切つたと言つたことで泣いて頂こうと言つたので、結構前から計画を練つて、娘さんから手紙を頂いてお父さんへの感謝の手紙を書いて頂いて、川原(奨)先輩には分らない様に郵便で送つて頂いて、それを卒業旅行の結構高いすき焼き屋で読んで最後泣いてもらおうとやつたのですが、最初に娘さんの手紙を普通に読んでもらったのは、凄くいいので、僕が一生懸命文章を考へて嫁さんに字でバネない様に書いてもらつて読んでたのですが、谷原(康弘)先輩に読んで頂いたら泣き始めて「これ読めんわ」と言われ、その後、大前君とそれをみんな涙して読めなくなつて、実際に娘さんの手紙で号泣して話にならなかつたと言つたのが、凄く印象深くて卒業生を喜んでもらうと言つたテーマが出来て一番感動したというのが、一番印象深い年でした。

その後、委員やつたり副理事長をやつたのですが、副理事長は先ほども言つた様に見える立場

が違ふということ、結構しんどいことも多くて、この年は凄く正副メンバー、美ノ上さんだったり、安楽城さんだったり、川崎さんだったり、山北理事長だったり、今岡専務だったりに凄く助けて頂いたなと思ひます。結構しんどかつたなあと思ひます。

今年(2020年)はコロナついで、小川委員長に結構いろいろ気を使つて頂きながら、楽しませて頂いておられます。最後まで頑張つて頂きたいなと思ひます。

思い出はここまでにして、現役メンバーと言ひますか若い方に伝えたいことなのですが、僕は同期にも結構恵まれていて、同期の方々にも凄く感謝していることが多いです。そして同期が心の支えになつている部分もかなりあります。是非このタイミングで入つた仲間ですので、是非同期を大切に頂ければなあと思ひます。同期会などすると仲良くもなりますし、しんどくなつた時にいろいろ話ができると思ひます。

最後に一言です。先ほど(高橋)洋樹君からあつたと思ひますけど、理事はどうこうと言つてなかつたと思ひますけど、是非理事をやつて頂いて、やれないと思つている方もいると思ひますけど、やれない理由を探すよりは是非どうやつたらやれるかを考へて頂いて、折角このJICに入つて40歳で終わる言つた方があると思ひます。折角入つたのであれば、何かしら変わるきっかけを作るべきだなと思ひます。

委員長なり理事なりやるという人々と接する機会が増えて、いろんな人と出会うことによつて価値観だつたり、自分が思つて無かつたことが経験できるじゃないかと思つています。なので、いろいろ大変なこともあると思つたのですが、是非やつてみよう、どうやつたらやれるのかを考へて頂いて、理事だけが全てだと思ひないで、是非、理事をやつていただければと思ひます。簡単です。卒業生スピーチとさせて頂きます。ありがとうございます。



三谷 彰 紀
 こんばんは、とうとうこの時間が来てしまつたという感じです。
 まずは加度理事長を始めとする事務局、運営の皆様このような素晴らしい機会を頂き誠にありがとうございます。

昨日言いたいことをまとめてきました。まずは入会のきっかけですが、僕の父親がOBということもありそのうち自分も入会するんだろうなという気持ちでいたところ、お誘いもあり入会することになりました。

仮入会員の時は出席もできず「ほんとに入るの?」と言われながらも本人会となりました。

1年目、2年目は一生懸命でできることをやらせていただいたと思っています。その時の委員長と二緒に頑張りましたが、その自分分の言いたいことを意見させて頂き、それなりに頑張りました。周りからは「いややつが入つたぞ」と思われたのか3年目で理事をさせて頂きました。委員長として理事になり、気付いたことが理事側の輝きというものを発見させていただきました。やはりフロアにいると見えないものがあります。運営していくうえで様々なことを考えていて行かないといけないですし、自分がやらないと何も進まないというところにおいて、その当時の委員長たちはみんな輝いていました。自分はどうと「こいつやばいな」というくらいやばかった大変な時でした。でもそんな中でも現役の委員会メンバーである岡田健吾君、中司君には本当に助けてもらい、総務委員会から「おもしろいムービーを作ってみよう」ということであの時めちゃくちゃ楽しかったです。担当事業の卒業例会では委員会メンバー全員で前日まで頑張つて作り上げた例会であり、これができたということの中で誇りとなっています。当時の委員会メンバーへありがとうと感謝を申し上げます。

4年目は副委員長として委員長の島田元太君を支えていきました。(島田)げんちゃんは委員会を開くにも前日からしっかりと資料など準備をし、事業の組み方、家族会、学校の教育事業とれをとって一緒にできたことを誇りに思っています。ありがとうございました。

4年目以降はフロアに戻りそこから見えてくるものもありました。偉そうに言うつもりではないですが次世代の輝きというものをみれたのではないかと思います。

5年目は中司委員会でしたが、事業を通して防災を先駆けて行い、会にとってもいい事業になったのではないかと思います。

6年目は森川委員会では大変迷惑をかけましたが、本

会員資質の向上という目的もあり、会のことを考えてチーム力の向上にむけた事業や1月例会、新年宴会でもみんなが一致団結しようやということでも赤く燃えたおもしろい1年でした。

7年目は鍋島委員長の総務委員会でした。鍋ちゃんなんかにひょうひょうと何でもこなす印象でした。こちらでは何もすることないなという感じで進めてもらい、総務としてきつちりとしつかりとやり遂げられたのではないかと思います。その時に話をしたことが「僕らの生きる意味は何だろう」という会話になり「やっぱり次世代をそだてることじゃろ」という私の意見に対し「僕は興味ないっす」という感じでした。早く子どもを作ってください。

8年目は大前委員長はよく頑張っていました。大脱出という防災事業をやりましたが、大前委員長は事業当日までは組み立てなどの段取りで忙しくしていましたが、当日はフロアメンバーに任せて全体を見る役割をしていました。この事業は本当にいい事業でした。

同じ年に高山さんを委員長とする幹事としてブロックへ出向しました。高山さんは当時LOMでは理事の経験がない中で、まったく知らないメンバーとやり取りをしながら事業を組み立てていき、決めたことを即行動に移すところが素晴らしいと感じました。ブロックは正味初めて深く関わったのですが、意外と楽しいものでぜひ皆さんにも機会があればブロックへ出向してみてください。

最後、今年が高橋洋樹委員長の委員会でのコロナの状況の中で、(高橋)洋樹君は腐らず頑張つて結果出して事業も組み立てていって本当に尊敬します。最後に(高橋)洋樹君の委員会でもよかつたんじゃないかと思えます。(高橋)洋樹君は私の尊敬するひとりになったんじゃないかと思えます。

JICをやる意味ですが何かを成し遂げるということじゃないかと思えます。理事をする、理事の委員長を支えるでもいいで、成し遂げる意思を持ってください。自分ができたかどうかは別としてせっかくなに所属して、お金時間を使つてるんだからそこで何か掴まないと損でしかないし、絶対に掴めるものもあるし掴もうと思えば掴める場所だということがJICだと思えます。ぜひ何かを求めて行動するという心掛けてもらえればいいのではないかと思います。

最後にこいつとなら何か一緒にできるな、話を聞いてくれるという仲間を作つてほしいし、そんな場所でもあるんだと思つています。長いようで短いようなJIC生活でした。JICに入つてよかったなと最後の気持ちです。皆さんもそんな風に思えるようなJICライフを送ってください。

総務広報委員会の島田です。1月に両肘を骨折し、只今手術後のリハビリ中として、何かと皆様にご迷惑をおかけしております。

この記事を書かせて頂くきっかけからお伝えしますと、入院中に当委員会の鍋島君がお見舞いに来てくれました。手術後の痛みも激しく、病院は心細く、本当にありがたかったです。その彼が開口一番、「JICライフに闘病記書いて欲しいんだけど」です!!「鬼か!!(汗)」にこの人確かお医者さんと聞いたことがありますが、ニコニコしながらとんでもない人です。彼が帰った後、副委員長の岡田さんに「鍋島君からひどい依頼がきました。怪我人つかまえて、どう思いますか!」と苦情を言うと、「あ、それ委員会で満場一致で決まりました。」です!!(汗)皆さん、これがJICです。使えるものは全て使う。経営者の鏡です。結局のところ、同期の山本委員長の差し金ですので、断れません。手首も捻挫し、手はクリームパンのように腫れ上がり、得意のブラインドタッチは見る影もありませんが、精一杯、職務を全うしたいと思います。

どうせなら 編集後記
 わらってしまえ 闘病記

HP 

facebook 

しかし東京は怖いところです。通勤ラッシュの階段で人混みにぶつかり、転落した私が倒れていても誰も声をかけてくれません。トランクとバックを拾ってくれる人すらおりません。愛する尾道であれば、あつという間に人ばかり間違いなしです。結局自力で歩き、駅員に声をかけ、救急車で搬送。その後、東京で2日入院し、尾道に戻り手術をし、退院後のリハビリという経緯で現在に至ります。

人生初の手術は大変な苦痛でした。担当医からは「それほど難しい手術じゃないから40分くらいで終わるよ」と聞いていましたが、結局たっぷり2時間です。眠っている間に終えて欲しいので、睡眠薬を注入しましたが、緊張と興奮状態では効かないことが多いらしく、さっぱり眠れません。私は生々しい音を聴きながら苦痛に耐えています。医師は看護師と楽しそうに世間話をしながら、メスを入れます。もちろん麻酔が効いているので、痛みはありませんが、楽しそうにメスを入れられると、心が痛みます。ともあれ無事に手術を終えることができました。担当医、自画自賛の大成功です。まああれだけ楽しそうに看護師と話して失敗したら出るとこ出ますよ、ホントに…。



次回は地獄のリハビリ編です。またJICライフにてお会いしましょう。
 (次月号に続く…予定)

(記事:島田昌広)